

第 17 回 職業能力開発研究会記録

研究会運営委員会

1. 開催日時、場所

- ・日時：平成 26 年 12 月 17 日（水）16:15～17:30
- ・場所：職業能力開発総合大学校 1 号館大会議室

2. 発表者、参加者数

- ・発表者：小原哲郎 氏（職業大名誉教授）
- ・講演題目：現場技術と OJT/OffJT
- ・参加者数：30 名

3. 配布資料

- ・講演用パワーポイントのスライドのコピー

4. 開会挨拶

遠藤教授から開会の挨拶、本日の講演について紹介があった。

5. 講演概要

■ OJTとOffJT

- ・前提はヨーロッパ的職業訓練
- ・インフォーマルなOJT中心の職業能力開発では、OJTにOffJTを差しはさむ形となる。
- ・OJTとOffJTの相互補完関係において、例えばOJTの表が「生産（仕事）」であるのに対し、裏が「教育（訓練）」となるが、教育は目的という意味ではなく、OJTにおいて生産を行うと結果的に教育が生じるという意味である。

■ 現場技術の総合性

- ・例えばIT化された作業は、「IT化された機器の操作法に関する能力」と「IT化された機器で行う作業内容に関する能力」に分類できる。後者の認知度はまだ浅いと感じており、これはOJTでは学びにくい。IT機器が一般化しているためである。

6. 質疑応答

建築 遠藤教授：

Q. 技能はOJT、技術はOffJTとも考えられるかどのようにお考えか？

A. 動いている「技術」、動かす「技能」ともいえる。現場からの技術（開発）もあり、必ずしもそうとはいえないと考えている。日本はOffJTを学ばなければいけない要素が不足している。オーソドックス（標準的）な作業方法と理論的な裏付けである。

古川校長：

Q. 「技術・技能相互の関係」の図が分かり易いと言ったが、それは事例を考えていたからである。機械の分野で考えれば、AはNC工作機器、Bは汎用工作機器でCは道具になる。また、Cの上も存在する。セル（生産方式）やDNC、更にはFAである。経費を考慮して、日本がアジア等の相手国に対して提案をすることができるのではないか？また、「知識」、「判断」、「センス」はA・B・Cのそれぞれにおいて重み付けが異なるのではないか？Aではセンス、Bでは判断、Cでは知識が

中心になってくる。この辺は科研費を利用した研究で検討している。

- A. 現在、図とは異なる別の技能のあり方を検討している。また、この図を作成した時にはそこまで踏み込んで考えていない。考えるのであれば、具体的な研究が必要になると思う。

7. 次回研究会について

講演者及び日程は未定。

以上